

地域の交通と福祉の課題解決を目指すCommunity Drive プロジェクト

— 富山県黒部市と広島県福山市における実証—

羽鳥達也／日建設計

羽鳥 達也
TATSUYA HATORI

日建設計
執行役員 設計グループ代表

日本建築家協会 登録建築家

NIKKEN SEKKEI LTD
Executive Officer
Principal, Architectural Design Group

Architect JIA



NIKKEN SEKKEI – Company History

Number of completed buildings: Over 14,000

Domestic offices: 19 locations

Overseas offices: 12 offices in 6 countries

✕ 現存

☒ する (現存・未確認)

☒ しない (取壊し・大規模増改築・計画のみ)

📅 竣工年

1952

2023

🏠 タイプ

すべて選択

すべて解除

☒ 教育
 ☒ レジデンシャル

☒ 生産
 ☒ 研究

☒ スポーツ
 ☒ 医療・福祉

☒ ホテル
 ☒ 文化

☒ 庁舎
 ☒ 空港

☒ 商業
 ☒ その他

☒ オフィス・ワークプレイス

NIKKEN
mapbox EXPERIENCE, INTEGRATED





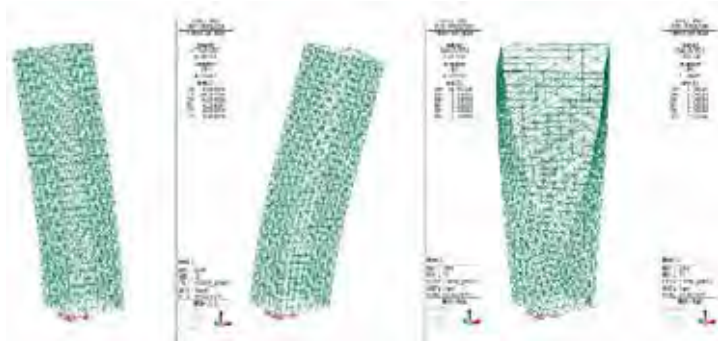


125年間の設計の歴史は、無数の関係者との対話、合意形成の歴史。

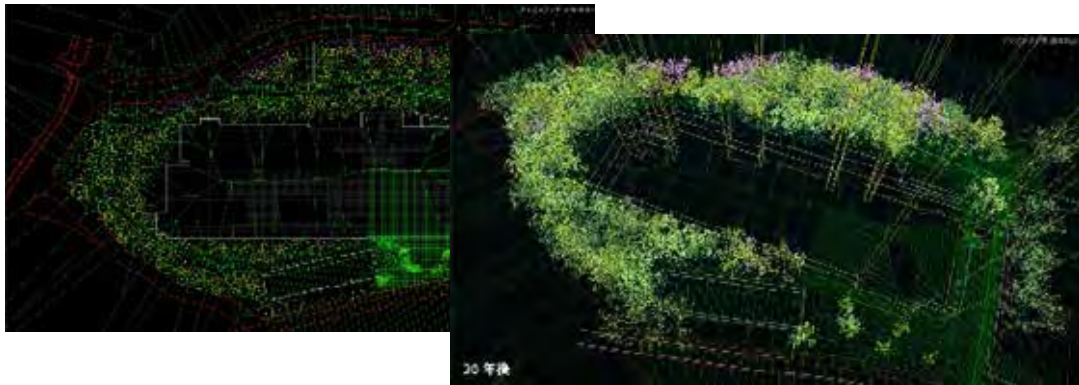
Wind condition



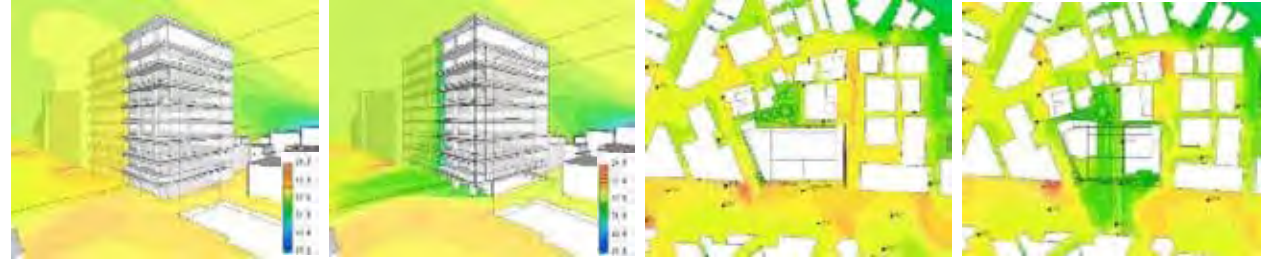
Structural analysis



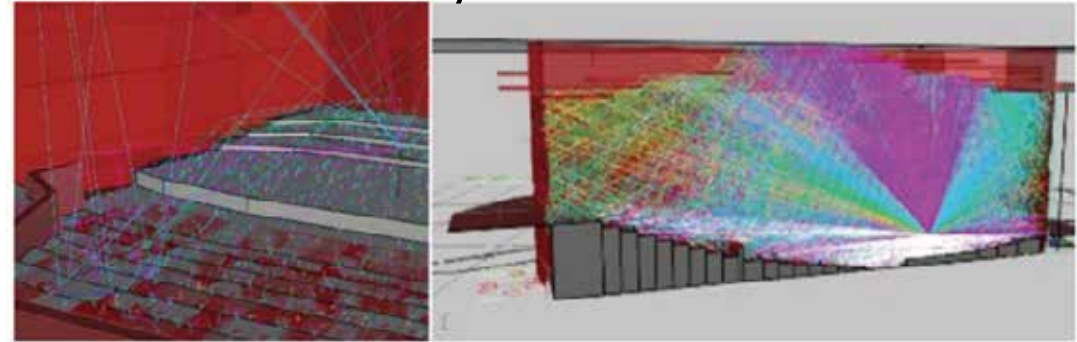
Tree growth



Thermal environment



Acoustic environment analysis



Encounter Probability Simulation





逃げ土地図

- ホーム
- お知らせ
- 逃げ地図とは
- 逃げ地図の作り方
- 災害別のポイント
- 事例紹介
- 逃げ地図研究会について



災害から命を守る
「逃げ地図」づくり
逃げ地図づくりプロジェクトチーム 編集

そのとき、あなたは
命を守る行動を
とれますか？

ぴょうせい

NIGECHIZU : A map that clearly shows areas with a high risk of delayed evacuation from a tsunami.





東海

- 静岡・下田市立下田中学校
- 静岡・下田市旧市街地区
- 静岡・下田市吉佐美地区
- 静岡・下田市立朝日小学校
- 静岡・下田市白浜地区
- 静岡・下田市旧市街地区（静岡・下田 遊ぼ...）
- 静岡・下田中学校（下田・遊ぼう祭）
- 静岡・河津町立河津南小学校
- 静岡・南伊豆町立東小学校
- 静岡・南伊豆町青市地区
- 愛知・常滑市立南陵中学校
- 三重・尾鷲市三木里地区（第1回）



北陸

- 石川・金沢市大野町地区（第1回）
- 石川・金沢市大野町地区（第2回）
- 石川・金沢市長町地区
- 福井・福井市清明地区
- 新潟・燕市児童研修館「こどもの森」



近畿

- 兵庫・神戸市港湾地区
- 和歌山・山村交流センター
- 和歌山・田辺市文里地区
- 和歌山・JIA(日本建築家協会)和歌山地区会
- 和歌山・小戸コミュニティセンター
- 京都・福知山市中心市街地

公開: 2024年9月12日

共有



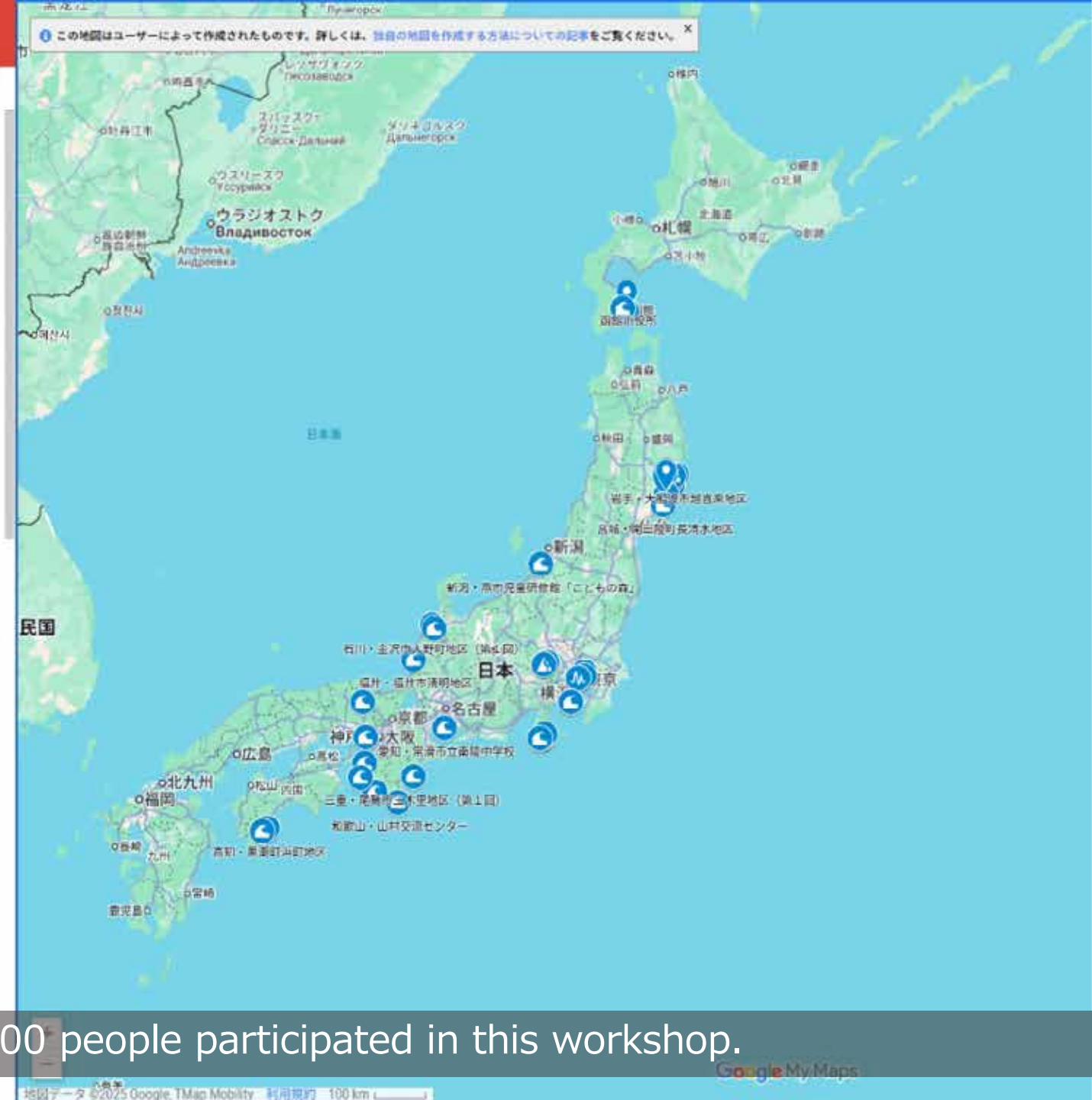
東北

- 岩手・大船渡市越喜来地区
- 岩手・陸前高田市長部地区
- 岩手・陸前高田市立高田東中学校
- 岩手・陸前高田市小友地区
- 岩手・陸前高田市広田地区
- 岩手・陸前高田市米崎地区
- 岩手・県立大船渡東高校
- 岩手・県立住田高等学校
- 宮城・気仙沼市大谷地区
- 宮城・気仙沼市津谷川流域
- 宮城・気仙沼市立面瀬小学校・面瀬中学校
- 宮城・南三陸町長清水地区
- 函館市役所



関東

- 埼玉・秩父市久那地区
- 埼玉・秩父市上白久地区
- 埼玉・秩父市下白久地区
- 埼玉・八潮地区
- 東京・葛飾区堀切地区
- 東京・新宿区戸塚地区 高田馬場3丁目
- 東京・新宿区戸塚地区 高田馬場1丁目
- 神奈川・鎌倉市材木座・由比ヶ浜地区
- 神奈川・鎌倉市立第一中学校



An estimated 7,000 to 10,000 people participated in this workshop.

地域課題の解決にむけたコツ

「対話は誰とすべきか」

「情報はどこにあるか」

「情報はどうすれば伝わるか」

「仮説はどんなものか」

地域の移動はみんなで作る



*Community
Drive
Project*



NIKKEN
EXPERIENCE. INTEGRATED



解決すべき構造的課題

黒部市（人口約3.9万人、高齢化率33%）を中心に実証を展開

全国約1,200自治体が同様の移動課題に直面

地方の移動課題は福祉・教育・物流等と相互に関連

従来の「実証実験→撤退」の悪循環から脱却が必要

なぜ移動課題に取り組むのか？

課題は深刻！

移動課題は全分野横断的な課題



教育・体験機会

子どもが習い事や体験活動に行けるかは親の送迎に依存。移動手段がないと教育機会を喪失。



健康・生きがい

高齢者の外出を支える公共交通の縮小は、買い物や健康維持、社会参加の機会損失に直結



物流・災害対応

災害時（緊急時）に物資はあっても現場に届けられない。地域内物流の仕組みが不可欠。

でも解決が進まない！

課題解決の取り組みが根付かない

自動運転やAIオンデマンド交通など
様々な実証実験が行われているが

深刻な
ドライバー不足

地元交通事業者・自治体の
連携が不足

ビジネスモデル
構築の難しさ

など、将来にわたって
持続的な移動手段の導入には課題が大きい

移動課題は特定の事業者や行政などが個別に対処して解決することは難しいので
地域全体で協力して総合的なアプローチが必要！

人

(コミュニティ・ドライバー)



技術

(うまく生かす)

プロセス

(主体性・合意形成)

移動課題を解決するサービス開発から始めるのではなく、
「コミュニティをドライブする」ことから始める。

なぜ人にフォーカスするのか？



2024年7月25日 日経クロステック



2024年6月13日 ダイアモンドオンライン

技術的に解決できるという仮説があっても、人手がおらず、部外者への信頼感がない状況では新しい技術も根付かない。

Community Drive プロジェクトとは

人材の
発掘と育成

地域を動かす人材である
「コミュニティ・ドライバー」
の発掘と育成

横断的な
連携・共創

地域住民、行政、企業等の
それぞれのセクターの
課題を共有し共創していく

土壌づくり
のプログラ
ム開発

「住民の主体性」と
「地域の合意形成」を地域に生み出す
プログラムを提供

「コミュニティをドライブする」知見を持つ3社がタッグ



課題の当事者

地域のつながり

財源の循環



合意形成

データ分析

まちづくり



課題の整理・構造化

デザイン

PJ推進・事務局



対話

顔をみて意見を交わす

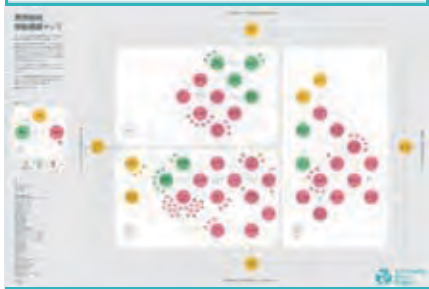
- 地域住民、企業、行政の方にそれぞれお話を聞く会を開催
- 多様な立場の方を一同に集め、お互いの立場を越えた議論



調査

地域の実状を知る

- 地域住民の移動経路を調査
- 企業に車両保有台数や用途、課題感などを聞き取り



可視化

課題やデータを見える化

- 様々な意見、課題の本音を聞き取り、AIで解析し分析
- 地域の移動の課題を見える化



実行

実際に行動に移していく

- 上記3つの活動で地域の主体性と合意形成を築き、みんなで移動の課題をどうできるか、解決策を小さく実行していく



展開

他地域へ展開していく

- 上記4つの活動を全て統合し、他地域でも汎用性のあるツールやプログラムを企画開発
- 今後他地域での展開を行う予定

コミュニティドライブプログラムの3ステップ

Step1



キーとなる人材の発掘

広島県福山市

Step2



地域の機運醸成

富山県黒部市

Step3



移動課題解決を
推進する体制の構築

Community Drive プロジェクト 2025

黒部エリアにつづいて福山エリアでもプログラム開始

異なる特性をもった地域による広域連携でコミュニティドライブを多角的に推進

- 2025年2月 キックオフ開催
- 2025年7月 プログラムSTEP 1 開始予定

STEP 1 広島県福山市

中山間地域×都市部の
複合構造



人口：約44万人

- 2024年7月 プログラムSTEP 1 実施
- 2025年7月 プログラムSTEP 2 予定

STEP 2 富山県黒部市

高齢化率32%
免許返納者多数



人口：約4万人



Step1 → Step2



Kurobe



黒部市でコミュニティドライブプロジェクトを推進



こっしー

SMARTふくしらぼ/プロジェクトマネージャー

元体育教師、元社会福祉協議会職員（22年）

好きな飲み物：カシスウーロン

福祉×モビリティの文脈で活動



たねちゃん

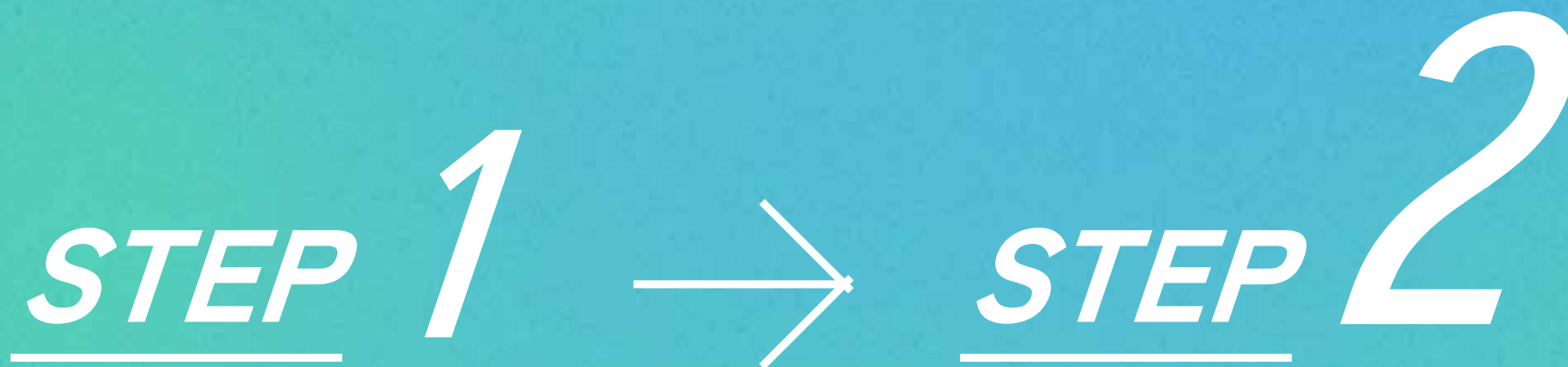
SMARTふくしらぼ/研究員

GOトレ事業リーダー

元気で明るい2児のママ

働き世代の当事者の文脈で活動

黒部は STEP 2 へ挑戦



- 黒部はSTEP1を2024年度にやりました
- そこで解決したい課題と、それに取り組むキーパーソンとなるコミュニティドライバーとつながりました

- STEP2では、コミュニティドライバーの方々と一緒に課題解決に向けた実証実験（マイクロプロジェクト）を実施しました
- その活動の拠点として、モビLABを設立し、毎月1回集まりながらコミュニティドライバーを中心にマイクロプロジェクトを推進していきました

黒部の福祉の現場から見る課題

移動が伴うサービス

自宅に行く

訪問介護/看護

施設に行く

デイサービス

▼
福祉人材が1日の業務のうち送迎に
3時間をとられてしまうこともある

移動が伴わないサービス

入所する

入居型施設

▼
人材採用するにしても送迎業務が
ないことで人材が確保しやすい

**在宅で暮らすことを支える福祉サービスが買えない時代が来る。
(もう、来ている)**

黒部市に関する調査結果

(2021年～2023年：トヨタモビリティ基金と共同で行った福祉分野の移動資源調査)



維持費は年間**2億円**、地域の移動手段は**遍在**



移動リソースを集約・一元化し、地域で利活用すべき



調査 対話

行政向けWS

参加者数

23人

年代・属性

30~70歳

出てきた課題の数

27件



可視化 調査 対話

地域住民向けWS

参加者数

161人

年代・属性

12~75歳

移動実態調査

79件



調査 対話

企業向けヒアリング/WS

参加者数

47人

年代・属性

35~50歳

ヒアリング調査

24件



モビ地図による移動データの収集・調査

一日の移動の流れ(時系列)

時刻	移動の種類	移動先	移動手段
7:10	起床	自宅	徒歩
7:15	通勤	大平族公民館	バス
12:15	昼食	自宅	徒歩
12:20	帰宅	自宅	徒歩
14:20	通勤	大平族公民館	バス
16:25	帰宅	自宅	徒歩
16:30	就寝	自宅	徒歩

一日の移動の流れ(位置)

自宅 (7:10) → 大平族公民館 (7:15) → 自宅 (12:15) → 大平族公民館 (14:20) → 自宅 (16:30)

居住地、年齢、性別、免許保有状況、運転頻度、職業、家族構成、車の保有状況、外出の困難さなど

移動履歴シート

時刻	移動の種類	移動先	移動手段
7:10	起床	自宅	徒歩
7:15	通勤	大平族公民館	バス
12:15	昼食	自宅	徒歩
12:20	帰宅	自宅	徒歩
14:20	通勤	大平族公民館	バス
16:25	帰宅	自宅	徒歩
16:30	就寝	自宅	徒歩

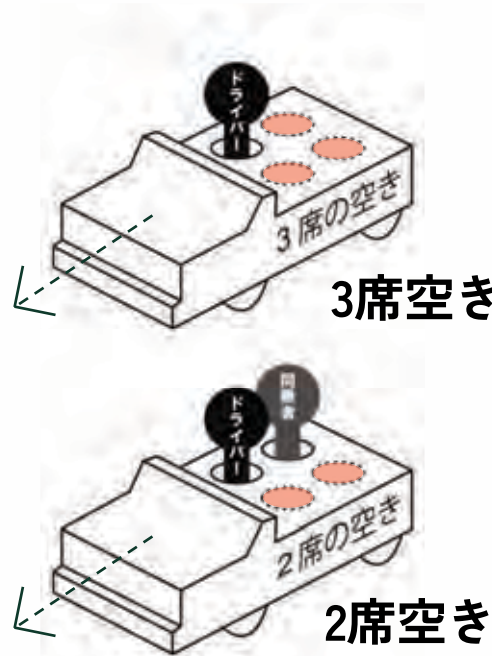


住民のみなさんに、いっどこにどんな車で誰と移動しているのかを手書きで記入してもらい、住民の方々の移動の実態を集計・分析することで、リソースの余剰や移動のニーズを捉えた

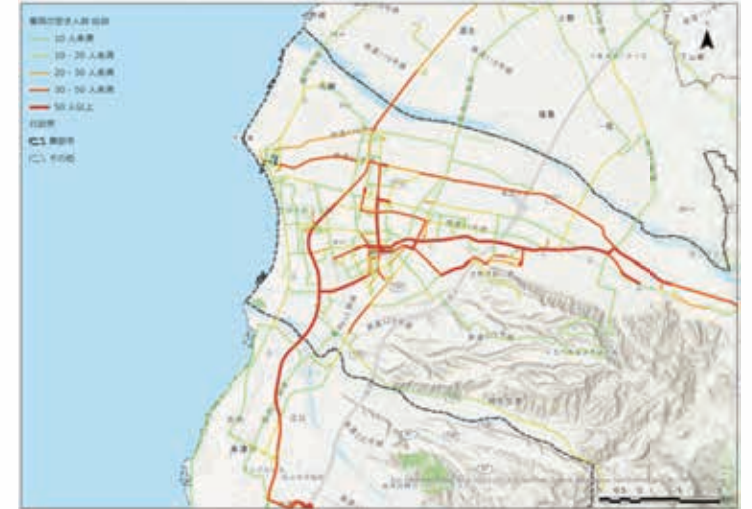
地域の潜在的な移動リソースの可視化



地域住民の方から
いただいた移動データ



移動する車の向きと
“空き席”がわかる



空き席を道路ごとに集計して
地図上にマッピング

空き席を集計すれば地域の潜在的な移動リソースが
可視化できるのでは？

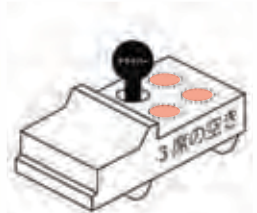
朝10時までの移動リソース（空席数と移動する方向）

車の空席数（1日）

WS取得情報

黒部市全体の推計

	5 席未満	1000 席未満
	5 ～ 10 席未満	1000 ～ 2000 席未満
	10 ～ 20 席未満	2000 ～ 4000 席未満
	20 席以上	4000 席以上



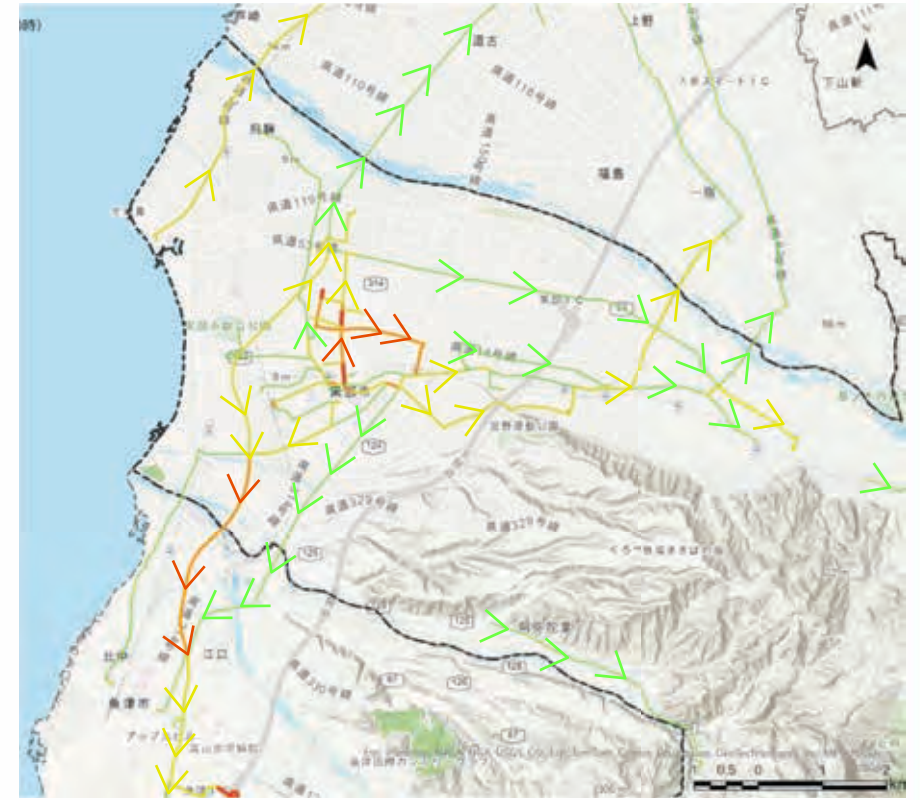
空席 3



空席 2



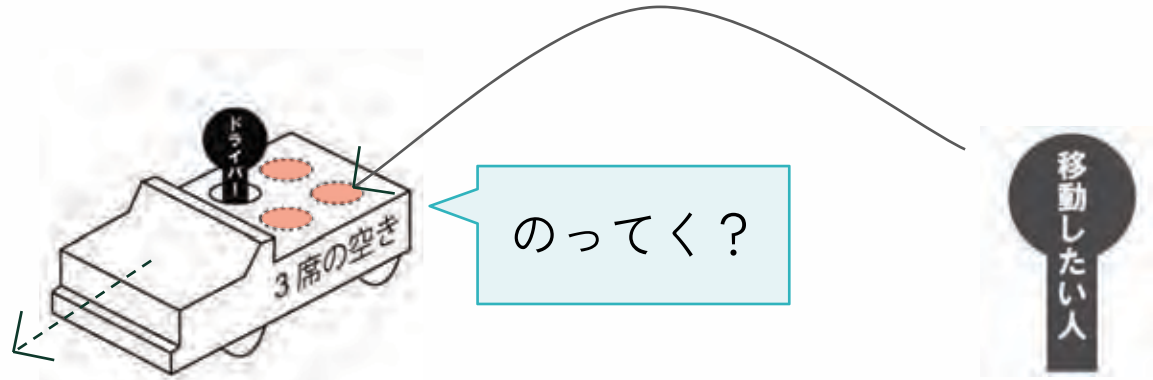
AM10:00まで 中心部に移動している人



AM10:00まで 中心から離れる人

朝10時ごろまでの通勤、通学時間帯に空き席を活用できる可能性が分かる

移動リソースと移動に必要な人の重ね合わせ



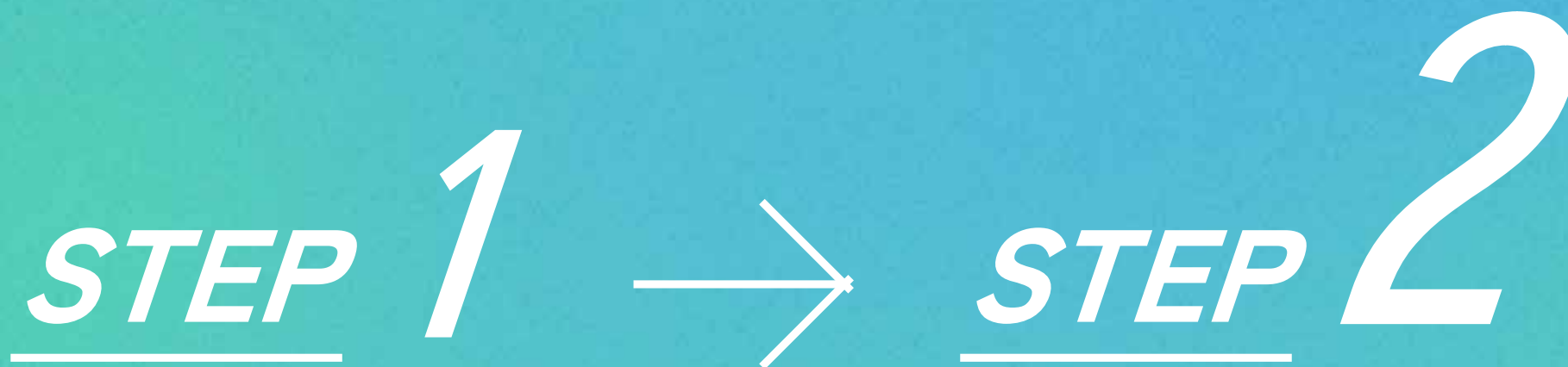
潜在的な移動リソース



自分で移動できないが
移動したい人

潜在的な移動リソースと、自分で移動できないが移動したいと思っている人をマッチングできれば、移動問題の多くは解決できるかもしれない。

黒部は STEP 2 へ挑戦



- 黒部はSTEP1を2024年度にやりました
- そこで解決したい課題と、それに取り組むキーパーソンとなるコミュニティドライバーとつながりました

- STEP2では、コミュニティドライバーの方々と一緒に課題解決に向けた実証実験（マイクロプロジェクト）を実施しました
- その活動の拠点として、モビLABを設立し、毎月1回集まりながらコミュニティドライバーを中心にマイクロプロジェクトを推進していきました

今回取り組んだマイクロプロジェクト3つ

住民の意識一つで
公共交通の
利用は
増える説



公共交通を
活用すれば
どこからでも
介護サービスは
受けれる説



助け合い
サービスで
ちょっとした
困りごと
解決する説



人をだいに進める仕組み

安心安全の場づくり

誰でも参加可能

インクルーシブ・コミュニティデザイン

グランドルールの作成

社会的距離の短縮と役割解除

あだ名で呼び合おう

参加型合意形成

最高〇〇責任者を設定

役割の再フレーミング

出席の自由度

習慣化と共同体学習

定期的なリアル開催

自己調整学習

ミニインプット

マイクロラーニング

モチベーション維持

みんなが研究員

CXO

最高〇〇責任者

一人一人がいろんな知見と経験を持ったプロフェッショナル

実際に
こんな
責任者が！

CTO：最高つなぐ責任者
CYO：最高よりそい責任者
CKO：最高経験を伝える責任者
CTO：最高つつこみ責任者
CJO：最高(バス)事業説明責任者
CNO：最高ニコニコ責任者 etc



顔と名前を一致させ、誰がどの回に参加したかをデータ管理



最高寄り添い責任者 (CYO)
(村上兄弟) アニー

🔄 2025黒部キックオフイベント



最高運転責任者 (CUO)
まーくん

🔄 2025黒部キックオフイベント



最高つつこみ責任者 (CTO)
のん

📺 モビLAB #02本番 🔄 2025



最高経験を伝える責任者 (CKeik)
つぐ

🔄 2025黒部キックオフイベント



最高当事者責任者 (CTO)
わかっち

🔄 2025黒部キックオフイベント



最高つながり責任者 (CTO)
ようちゃん

🔄 2025黒部キックオフイベント



最高つなぐ責任者 (CTO)
なりりん

🔄 2025黒部キックオフイベント



最高なごませ責任者 (CNO)
まちりんママ

🔄 2025黒部キックオフイベント



最高調査責任者 (CCO)
ナカ

📺 モビLAB #01本番 📺 モビLAB



📺 モビLAB #01本番 📺 モビLAB

黒部市で実施したプログラム



キックオフ
ワークショップ
7月11日(金)

黒部フェアでの
対面アンケート
9月21-22日(土)



モビLAB#03
10月4日(土)

モビLAB#04
11月18日(火)

でかけレール
実証実験

12月10日(月) 地域包括センター
ヒアリング
12月19日(金)



8月19日
モビLAB#01

9月17日(水)
モビLAB#02

10月18日(土)
乗らず嫌い
体験イベント

11月18日(火)
愛本地区での
モビ地図WS

12月19日(水)
モビLAB#05

1月24日(土)
モビLAB#06
黒部ミラードライブ
フォーラム



モビLAB発の主体的な取り組み



マイクロプロジェクトの結果報告

黒都市の移動ミステリーに挑む！モビLAB 2025年度計画

モビLAB@黒部基地は、2025年度、「意識変革」「課題解決」「資産活用」の三位一体で、3つのマイクロプロジェクトを同時推進し、地域の移動の未来を共創します。

プロジェクト①：意識変革 「“乗らず嫌い” 脱出大作戦」



市民の「思い込み」の壁を壊す

「公共交通は不便」という思い込みと、「実は便利」というデータの両方を掲げる。



体験を通じて「隠れた便利」を発見

市民参加型のキャンペーンを実施し、移動の選択肢を豊かにする。

プロジェクト②：課題解決 「でかけレール × 助け合い交通」



介護施設の送迎が限界に

ドライバー不足やコスト増により、高齢者の移動が困難になっている。

鉄道と「助け合い」を組み合わせた新モデル

限界の公共交通と住民の協力を連携させ、介護福祉の負担を軽減する。

プロジェクト③：資産活用 「ココロネット応援大作戦」



眠っている地域の助け合い資産

地域の助け合いサービスが「知らない・不便」という理由で活用されていない。

「知らない・不安」から「知ってる・安心」へ

不眠の需要を調査・分析し、誰もが安心して使える資産策を策定する。

70%以上

目標：参加者の70%以上が意識変革
公共交通への関心・意識が高まったと回答することを目指す。

半分以下

目標：移動時間を半分に以下に短縮
宇垣月エリアから特設施設までの移動時間短縮を支援する。

60%以上

目標：利用意向60%以上を達成
サービスの認知度と「使ってみよう」と感じる市民の割合向上を目指す。

でかけルール × 助け合い交通



村上研究員（勇樹）

最高寄り添い責任者（CYO）

コミュニティドライバー

概要

中山間地域における介護送迎の維持困難という課題に対し、公共交通と住民の助け合いを組み合わせることで解決を目指す

やったこと

- 地鉄の乗車体験
- 公共交通についてのアンケート調査
- 介護事業者にヒアリング
- 地域の移動実態を調査

アンケートによる意識調査の結果

仮説

介護送迎の課題は、公共交通（でかけルール）と
助け合い送迎を組み合わせることで軽減・解決できる

洞察

仮説は概ね支持

ただし安全（事故時の補償・対応）と情報発信（届く広報）が前提条件

- 要点：家族送迎は不安（事故）×負担（送迎疲弊）×公共交通の“惜しさ”が重なる三重苦。
- 示唆：“一部は役立つが不便”層に、公共交通×助け合いのハイブリッドは強く支持される一方、“全く不十分”層には浸透しにくい（地域条件依存）。

介護が必要な方が電車で移動できるの？

要介護 1 までであれば
電車で移動できる可能性があるのではないか
この仮説をもって実証を行った

